

## 第3回 西部地区審判部会議 議事録

1) 日時 平成18年4月8日(土) 19:00 於: 県立武道館

2) 議案

役員改選について

平成18年度競技規則改、修正について

平成18年度県連盟公認リーダー講習会について

(審判技術向上のための方法論)

平成18年度JVA公認リーダー講習会について

全国スポーツレクリエーション祭担当について

西部地区審判委員会について

その他

3) 参考添付書類

チェックシート(雛形)

審判アンケートVOL1(雛形)

審判アンケート回答集計表(先例)

西部地区審判部役員改選について

前川みゆきさん、岡恵さん所属のチームが解散となり、両氏から役員継続不可能の旨の連絡がありましたので、今回、SVT所属の高橋真理さん、田崎昌宏さんを西部地区審判部員として活躍していただくこととなりました。宜しくお願い致します。

**以上可決**

本年度より、県連盟、地区連盟の組織が「部」から「委員会」に体制が変更になります。地区連盟の委員長、副委員長が県連盟の委員となり、その委員互選により県委員長、副委員長を選出する(18年度は各委員会委員長は17年度の県部長が引き続き執り行う。)

本年度は、地区から副委員長を選出することとなります。**下記可決**

西部地区副委員長 影山雄司(名和SVC)

平成18年度競技規則改、修正について(全国審判委員長伝達講習会)

ボールがネット下を通過した場合のハンド・シグナル・・・ボール・アウトのシグナルで表示する(改正)・・・P57第2図左側上から4番目(小学生ルール同様)

サービスは、片方の手の平にボールを乗せたまま、ヒットしてもよい(注解)(改正)(小学生ルールも同様)

タッチ・ネット・・・支柱に触れても反則にならない(前年度・・・ネット部分の支柱(80cm)に触れた場合は、タッチ・ネット)(改正)(小学生ルール同様)

線審のコートから離れる距離・・・0.5~1m(改正)(P51)

P17 第4図を大きくする(拡大されていないようですが、特に議論はありませんでした)

P25 パッシングザセンターラインの手、足の表示方法の変更

公式記録用紙(IF)は今年度都道府県で試用した結果、改善点等を日本ソフトバレーボール連盟審判規則委員会へ報告する(9月頃までに報告する)

鳥取県ソフトバレーボール連盟としては、各地区審判部において、日本連盟から提出のあったIF用紙を独自の方法に改善等を行い試行してみる。

添付のIF用紙は中部審判部にて改善を施したものです(これは、練習用として作成したとのことでした。)日本連盟リーダー講習会並びに県連盟リーダー講習会で使用するIF用紙は、日本連盟から提出された様式に、サブ順のみのを記載したものを使用するように考えています。

## 以上周知

平成18年度県連盟公認リーダー講習会について

(審判技術向上のための方法論)(日本バレーボール協会認定リーダー講習会を視野に入れて

グループディスカッション方式による講習。

ナイターリーグを利用して審判技術を向上させる取組。

地区クリニック・審判委員の技術向上等IF育成

デモンストレーションビデオの作成(保留)

教材の完成(保留)

### 審判技術向上について(県審判部における取組)

各地区において、あるチームに練習試合を組んでもらい、そこに出かけて審判講習をする。月2回限度(三地区の審判部が相互に協力して講習を実施する)県登録チームを対象にして、希望があれば講習を随時受け付ける。

各地区審判部内に周知する。

チェックシート・審判アンケートを利用する(自己診断、講習内容、方法論策定の参考とする)

各地区については、地区の特徴を考えて実施する。

**西部地区連盟審判委員会としての講習方法論として、県登録チームの年代別チームに練習試合を組んでもらい、審判クリニック(全スポに対しては審判員発掘を目指す・年代により、仕事の関係で、審判可否が分かれるため、審判員確保の一方法として有効と考える)**

### チーム代表者への周知事項

ユニホーム胸中央へ を付ける。

キャップテンマークを付ける。

監督章を付ける。

リーダーワッペンは胸の中央へ付ける。

### 平成18年度県公認リーダー講習会における本年度の講習県下統一方式

西部地区講習会 H18.5.21 9:00~12:00日吉津トレセン

中部地区講習会 H18.5.14 9:00~12:00東伯小学校体育館

東部地区講習会 H18.5.21 13:00~15:00

H18年県リーダー更新対象者 西部35人・中部16人 合計51人

(H17年資格消滅対象者 西部19人) =再度、新規受講を促す

## 以上周知

Aコート  
ファーストレフェリーの基本

Bコート  
セカンドレフェリーの基本

Dコート  
IFの基本

Cコート  
ラインジャッジの基本

基本方針：ファースト・セカンド・ラインジャッジ・IFの基本ジャッジができること。

講習順序 吹笛練習・IFの質問・その他、各地区において必要と認められる講義

実技(上記A B C Dの順に)

ゲーム(受講者数により点数を決めて全員がファースト・セカンド・ラインジャ  
ッジ・IFについて、試合初め～終了までを体験する)・**基本の理解の**

**総仕上げである。**

**地区受講者がその受講日に不都合の場合は他地区で受講を受け付ける。**

早急に各地区審判部会を開催し、県リーダー講習基本方針について確認、意思統一を実施する。

講習会開催前に必ずスタッフ打ち合わせを実施する。

講習実施要領は本年度の各地区県連盟公認リーダー講習会までに県審判委員会で策定のうえ実施する。

## 以上周知

平成18年度JVA公認リーダー講習会について

(全スポ大会を視野に入れて)

1) 7月8、9日(土、日：通常開催・**県民体育館**)・8月20日(日：自主開催・**大山総合体育館**)

2) 現時点での日本リーダー有資格者数81名

西部 204人

3) 現時点での日本リーダー受講対象者 中部 66人

東部 27人 **合計297人**(県リーダー)

**2)+3)人数=378人**

4) 全スポ審判員数(IFは2名)

22日予選リーグ54試合(主・副・IF)

(4人2試合で1コート20人×6コート**合計120人**)

23日順位別決勝リーグ54試合(主・副・IF)(**人数は上記に同じ**)

24日順位別決勝トーナメント(主・副・IF・ラインズマン・点示)

あコート3試合8人1試合で**24人**・いコート2試合8人1試合で**16人**

うコート3試合8人1試合で**24人**・えコート2試合8人1試合で**16人**

おコート3試合8人1試合で**24人**・かコート2試合8人1試合で**16人** **合計120人**

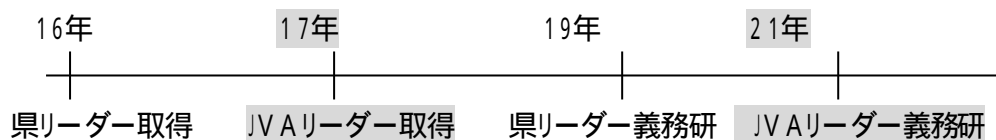
**3日間述べ人数360人**

## リーダー資格有効期限について

マスターリーダー4年毎の義務研修(17年度現在 西部2名・中部3名・東部3名・鳥取県割当10名)

JVA公認リーダー4年毎の義務研修が今年度から実施される

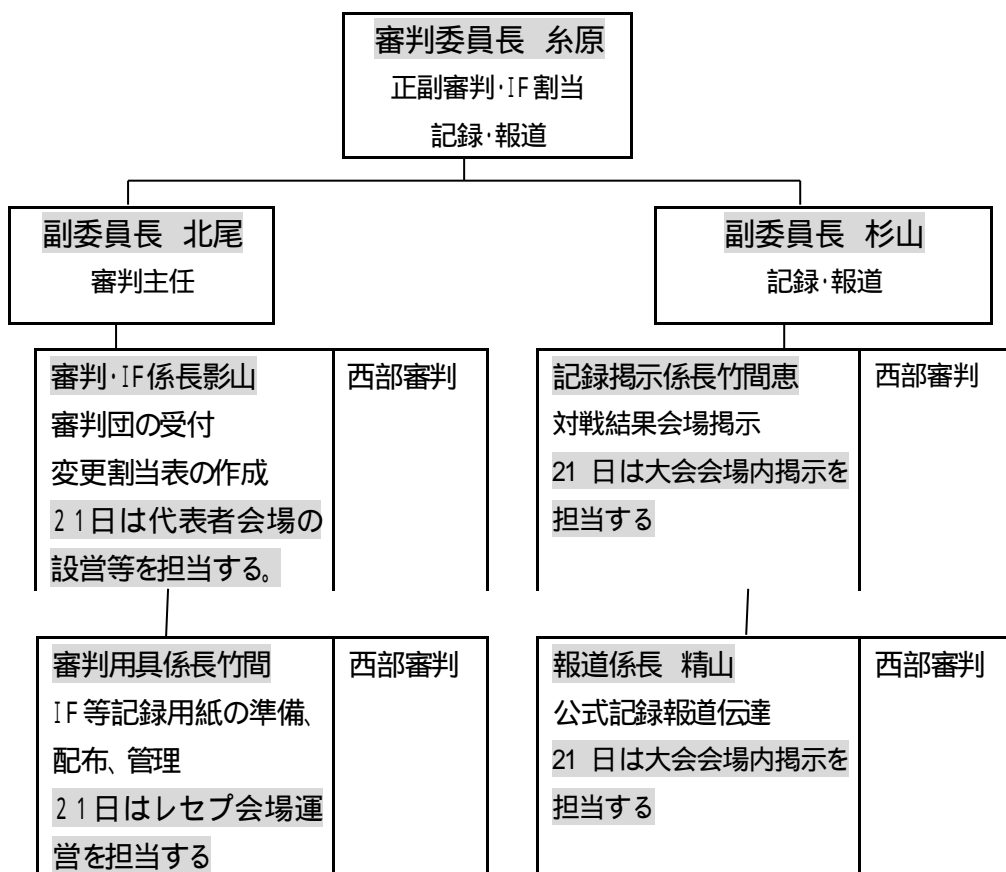
JVA公認リーダーと県連盟公認リーダー資格有効期限の関係



県リーダーのみの場合は2年毎の義務研。その間にJVAリーダー取得の場合はその取得の時から県リーダーとしての義務研である2年を計算する。JVAリーダー義務研は、JVAリーダー資格取得年から4年以内に義務研を受ける。

## 以上周知

## 全国スポーツレクリエーション祭担当について



委員長1名・副委員長2名・係長4名・係員42名 何れも10.22日～24日着任

## 以上後日再度考察

委嘱状を早期に出してほしい

## 西部地区審判委員会について

西部地区審判委員会として、管理担当を決める

～ 統括	糸原雅彦(審判委員長)
事務担当	精山 豊 田崎昌宏
業務内容	会の連絡、その他事務対応
ゲーム担当	影山雄司(副審判委員長) 原田強
業務内容	試合におけるコート管理全般・審判依頼対応
PR担当	銅山大介 早瀬勝年 高橋真理
業務内容	講習会事務・指導普及対応

**以上可決**

## その他

大会参加時は、委員は試合がない時には必ず本部席に着席してその時に必要な事務を遂行する。

**以上周知**